

高付加価値品で需要創造

高透明品 PC など代替狙う

東洋スチレンは、ポリスチレン（PS）の新需要を創造し、事業基盤を強固にする。ポリエチレンテレフタレート（PET）やポリオレフィンとの樹脂間競争が激しさを増すなか、高付加価値品を投入して既存用途にない潜在需要を掘り起こす。高透明性グレードで自動車や照明関連など他樹脂からの代替で本格採用に向け顧客評価が進んでおり、コンパウンド設備の改造・増強や研究所の評価設備の増設などハード面の投資も加速し、差別化戦略を一段と強化する。

PSの国内需要は、包期経営計画において、新需要創造をキーワードに、「PS+」と位置づける付加価値の高い製品を通じて、PSが使用されていない分野に進出していく計画。追求してきた差別化を一段と強め、新たなPS需要を獲得していく。

可視光線の透過率を大幅に改善した高透明性グレードは当初、導光板用途を狙っていたが、こ

にきて自動車、照明、携帯端末などの光学系で引き合いが強まり、サンプル評価が進んでいる。低吸湿変形性や易成形性を強みに、ポリカーボネート（PC）やポリメチルメタクリレート（PMMA）の代替を目指す。

設備面では、君津工場コンパウンド棟（千葉県木更津市）の年産能力1万4000ト設備でスクラップ・アンド・ビルド

を実施。6月から生産能力を約2割引き上げた。

付与する機能の多様化、自動化や省力化などの合理化も図った。ユーザーからの要望に応える受動的な対応だけでなく、開発した自社ブランドの採用を促す提案型営業を強化する。

PS製造ラインには君

津拠点に導入した金属検知器の他拠点への展開などを検討していく方針。食品包材メーカーなどが嫌う異物混入の防止精度を高める狙い。

研究所（千葉県五井市）でも、真空成形やシートリングなどの設備を増設中。業界内でも比較

的多くの特許を取得している点も強みで、中期計画期間内にさらに特許の数を伸ばす考え。

国内への安定供給を優先させながら、付加価値を得られるグレードでは中国や東南アジア市場も開拓する意向。深絞り向けなどの高溶融張力（ハ

イムルトテンション）グレード、レンジアップ製品に対応した耐熱グレードなど、これまで拡充してきた高付加価値品や次世代品などで他社との明確な機能の差を訴求し、商機を取り込む。将来的に特殊品で世界に評価されるPS会社を目指す。

東洋スチレン

2016年1～9月は前年同期比3%伸長した。ただ、中・長期的には国内市場の縮小や、2軸延伸ポリスチレンシート（OPS）のPETへの置き換えのほか、食品容器分野ではポリオレフィンなどの競争激化により、厳しい事業環境が続く見通し。

今年度からの3カ年中